2022年度 科学技術英語特論・演習の成績結果について

担当：小堀　聡

2022年度第１学期において数多くの授業がオンラインあるいはハイブリッドで実施されたが、本科目は従来通りの対面での授業（一部ハイブリッド対応）を実施した。

この科目では、英語について、読解だけでなく、聞き取り、読み上げ、英作文なども含めて、英語能力の総合的な向上を目指した。

初回では、ガイダンスと実力確認テストを行い、２回目からの９回では、発音・スピーキング・リスニング、文法の基本、科学技術英語の基本・語彙について講義した。さらに、11回目からの５回では、分野別の演習として、卒論要旨英訳および英語口頭発表を行った。

成績の評価は、平常点：20点、演習：40点、定期試験：40点により行った。

受講登録者15名のうち不合格者は1名で、合格者の内訳は、90点台：0名、80点台：3名、70点台：7名、60点台：4名であった。

不合格になった学生1名は不正行為による懲罰により0点となった学生である。この学生は「自分の研究テーマの英文を覚えることに意味がない」というまったく自分勝手な理由によりカンニングを行った卑劣な最低の人間であり、不合格になったのは当然の報いである。

また、平均点75点で、90点以上がおらず、60点台が4名もいることからも、大学院生として恥ずべき成績であったと言える。特に、後半の演習（卒論要旨英訳と英語発表）について取り組みが十分でなかった人がいたこと、また、定期試験も個々の問題については不十分な解答が多く見られた（２番の問題についてはあらかじめ準備ができるのにそれを怠っているケースが散見された）ことを考えるならば、まだまだ科学技術英語についての努力を続ける必要があることは明らかだと思う。

英語は、大学院での研究を進めるうえで必須であるだけでなく、修士課程を修了した者として、当然身につけておくべきスキルであるので、引き続き、英語学習にも真摯に取り組むようにしてほしい。

以上